



1

Aloha Amigo! フェデリコ・エレロ×関口和之

2012.5.3–2013.3.17

展示室13に《サイコトロピカル・ランドスケープ》と名付けられた作品空間が登場した。フェデリコ・エレロによって作られたこの作品は、ステージ状の巨大オブジェを中心に淡い水色の色彩が空間全体を包み込む。「サイコトロピカル」という名前のおおりの、夢と現実の風景が交差する、まるで色彩の森林にいるような空間ができあがった。

本展は、この場を舞台に、2人の作家関口和之とフェデリコ・エレロの表現活動を捉える試みとして、様々な人々を取り込みながら1年間行った展覧会である。展覧会タイトル「Aloha Amigo!」とは、2人の活動の拠点であるハワイとコスタリカの最も象徴的な言葉として「Aloha」と「Amigo」に注目し、本展が独自に作り上げた新たな言葉・価値で、地域・文化の対話のみならず、音楽、美術、人間、自然といったカテゴリーや境界を越える新しい世界像として提示したものである。本コンセプトの下、2人

の作家とともに38名のウクレレのプロジェクトメンバー、ウクレレ愛好者、展覧会鑑賞者、ウクレレ体験者といった多くの人々がこの展覧会に集結し、色を感じ、音を奏で、表現し、感動し、新たな自己を再発見し、そして他者と出会った。

関口和之は自らを「ウクレリアン」と称し、独自の表現活動をおこなってきたアーティストである。ウクレレが持つ人間をつなぐ力、豊かなコミュニケーションを生み出す力に注目してきた関口は、ハワイでの「ウクレレ・ピクニック・イン・ハワイ」など数々のウクレレプロジェクトを生み出し、ヒューマニティあふれる人間関係のありかたをいくつも提示してきた。一方、フェデリコ・エレロは1990年代より一貫してペインティング制作を行ってきたアーティストである。カンヴァスだけでなく、バス、道路、ビルといった公共物をも支持体に、独自のペインティング世界を広げてきた。こうした活動を行ってきた2人のアーティストに美術館が注目し、引き合

わせ、プロジェクトが始動する。エレロによって生み出された《サイコトロピカル・ランドスケープ》は、エレロが関口のウクレレへの思いやその音楽性に着目して生み出されたものであるが、エレロは一般的な音楽的機構にありがちなヒエラルキーと一線を画するウクレレの世界に注目し、演奏者も聞き手も皆が同じ時空を共有するステージを作り出した。階段状のこの巨大オブジェのステージとしての使い方は無限大である。オブジェの頂上のところで車座になってウクレレを弾いてもよし、聞き手も演奏者のすぐ横にすわってもよし、使い方は自由自在である。

空間が生み出された後、関口和之がプロデュースした鑑賞者向けのプロジェクト「Aloha Amigo!—ウクレレのある生活—」が開始した。このプロジェクトにおいて中心的な役割を担ったのが、38名のウクレレプロジェクトメンバーである。18歳から39歳までの「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」のメンバー「Aloha



2



4



3



5



6



7

Amigo Aina]19名、そして彼らを応援する18歳以上のウクレレ経験者「Aloha Amigo」19名によって、合計38名のプロジェクト・メンバーが結成された。彼らは特に本プロジェクトの「ウクレレフリーステージ!—誰でもウクレリアン」を担い、毎日展示室で鑑賞者にウクレレ体験の手ほどきを行い、幾重ものコミュニケーションを生み出し続けた。まさにウクレレのメッセージ、コミュニケーションのプロデューサーとなって、エレロの空間とウクレレ世界、作家と鑑賞者、音楽と絵画をつなげ続けた。彼らは自らの演奏活動も行い、展示室内や金沢市内の施設においてウクレレステージを繰り広げ、夏に美術館で開催した「Aloha Amigo! ウクレレサミット」では野外ステージで素晴らしい演奏を繰り広げた。彼らはまさに、関口が提唱したプロジェクト「Aloha Amigo!—ウクレレのある生活—」の体現者であり、展覧会コンセプトを生きた人たちであった。

関口が思い描いたウクレレと人間との結びつきは、エレロの色彩空間と相まってさらにその本質が明らかとなった。音を聴き、音を奏でる行為と、色やかたちを感じ取るという鑑賞世界が同質のものとして提示された展示空間で、鑑賞者やプロジェクト・メンバーは五感全てでものごとを感じ取り、表現する豊かさを体験したのだった。一面的で一義的な芸術的技術や鑑賞方法が提示されるのではなく、そこに佇むそれぞれの個が各々の物語を紡いでいくように、ひとりひとりが自ら感じ、その感情と向き合い、認め、唯一無二の音楽世界と鑑賞世界を築き上げた。こうした個が築いたそれぞれの世界こそが「Aloha Amigo!」という概念の本質であった。

(村田大輔)

1. フェデリコ・エレロと関口和之とメンバーたち
2. フェデリコ・エレロ《サイコトポカル・ランドスケープ》
2012年 ミクスト・メディア
H90 x φ760cm
金沢21世紀美術館蔵
3. 「Aloha Amigo! ウクレレサミット」
2012年8月26日
4. 展覧会ファイナルイベント「ウクレレがいっぱい」
2013年3月9日
5. ウクレレ・プロジェクト
「Aloha Amigo—ウクレレのある生活—」
「ウクレレフリーステージ!—誰でもウクレリアン—」
6. ウクレレ・プロジェクト
「Aloha Amigo—ウクレレのある生活—」
サタデー・ウクレレ・ワークショップ「キッズ・ウクレレ」
7. ウクレレ・プロジェクト
「Aloha Amigo—ウクレレのある生活—」
サタデー・ウクレレ・ワークショップ「シニア・ウクレレ」

1. photo: IKEDA Hiraku
2.5. photo: SUEMASA Mareo
3.4.7. photo: KITA Naoto